

第27回 環境アセスメント動物調査手法 講演会

< 主 催 > 日本環境動物昆虫学会

< 企画・運営 > 日本環境動物昆虫学会生物保護とアセスメント手法研究部会※

※夏原由博（部会長）、石井 実、今井健介、上田昇平、加藤敦史、澤邊久美子、初宿成彦、
中上喜史、平井規央、八尋克郎、山崎一夫（五十音順）

< 日 時 > 2017年6月24日（土） 9:30～17:00

< 場 所 > 大阪府立大学 I-site なんば（大阪市浪速区敷津東 2-8-1 南海なんば第一ビル 難波・大国町近く）

< 内 容 >

1. ドローンを使った環境調査の実際（9:40～11:00）

株式会社コンパス 藤本 卓矢

ここ数年で急速に普及しているドローンは、環境アセスメントの生物調査においても調査精度の向上や新しい調査方法を提案する上で非常に応用範囲の広いツールの一つである。演者はドローンの専門家ではないが、ドローン立ち上がり前夜から環境調査への応用を試行してきた。本講演では環境調査の実施者の立場から、ドローンの紹介やその機能、具体的な運用方法、ドローン飛行に関する法律、ドローンを使った環境調査の実例などを紹介する。

2. アリの生態と調査法（11:00～12:20）

大阪府立大学大学院 上田 昇平

アリは、ハチ目アリ科に属し、世界で約1万3000種、日本で約300種が知られる。陸上生態系においてもっとも大きな影響力をもつ生物のひとつであり、捕食、種子散布、植物防衛など、多様な生態系機能を持つ。本講演では、アリの一般的な生態と特徴を概観した後、形態に基づく分類、トラップ法・土壌採集法を用いた分布調査について紹介し、種間関係、DNA バーコーディング、外来種防除などについて得られた成果を発表する。

3. ベニボタル科の絵解き検索（13:30～15:00）

大阪府立大学大学院 松田 潔

ベニボタル科は日本から26属123種が知られている。本科はホタル科と比べ注目されることが少ないので、本科の生息環境、生活史、形態的特徴を概説する。また、ベニボタルを調べる手順として、野外でのサンプル採集、標本作成、雌雄交尾器を含む各部の観察手法、同定作業を解説する。これらを踏まえ、日本産ベニボタル科の亜科から属までの絵解き検索と野外でよく見られる代表的な種を紹介する。

4. カシノナガキクイムシの被害と調査法（15:10～16:40）

国立研究開発法人 森林総合研究所 九州支所 上田 明良

カシノナガキクイムシがブナ属以外のブナ科樹木に集中攻撃（マスアタック）して枯死させる被害、いわゆる「ナラ枯れ」が青森県から鹿児島県にかけて発生している。最初に被害の現状とクイムシ類の生態を概説する。次に被害発生の至近要因を説明し、究極要因について考察する。最後に、カシノナガキクイムシについてこれまでに発案された様々な調査法を紹介する。なお、演者はナラ枯れ防除の経験がないことから、防除についてのコメントができないことを了承されたい。

5. 質疑応答（16:40～17:00）

